

本日メモリー、ストレージ株が上昇した背景

8月20日

森 崇

本日、マイクロン (MU)、サンディスク (SNDK)、ウェスタンデジタル (WDC)、シーゲート (STX) などのメモリー、ストレージ株が上昇している主な背景は、以下の通りである。

(メモリー、ストレージ株が上昇している背景)**1. SK hynix の巨額自社株買い**

最大の材料は、SK hynix が総額 40 兆ウォン、約 286 億ドルの自社株買いと消却を発表したことである。

○発行済み株式の約 3.3% を買い戻す

○買い戻した株式を全て消却する

○2025～2027 年の累積フリーキャッシュフローの 50% 超を株主へ還元する

○配当に加え、追加の自社株買いや特別配当も検討するこれは韓国上場企業として過去最大級の株主還元策である。SK hynix 株は約 13% 上昇し、米国のメモリー株にも買いが波及した。

2. Samsung にも大型株主還元の観測

Samsung Electronics も、1,000 億ドルではなく、100 兆ウォン超、約 720 億ドル規模の株主還元策を発表するとの報道が出ている。

特別配当やフリーキャッシュフローの 50% 程度の還元が検討されている。これにより、メモリー業界全体が設備投資だけでなく、巨額のキャッシュを株主へ還元する段階に入ったとの期待が高まった。

3. メモリー業界の利益とキャッシュフローへの自信

SK hynix が巨額の自社株買いを実施できるのは、HBM、DRAM、NAND 価格の上昇によって、今後も高水準の利益とキャッシュフローが続くと判断している為である。

市場は今回の発表を、以下のように受け止めている。

- 現在のメモリー好況は短期的ではない
- 2027 年まで高水準の利益が続く
- 巨額の設備投資を行っても余剰資金が残る
- 従来より株主還元率が高まる
- メモリー株の低い PER が見直される

この見方が、MU や SNDK にも波及している。

4. Micron の AI メモリー研究開発投資

Micron は本日、アイダホ州ボイシに次世代 AI メモリーの研究施設を建設し、今後 10 年間で 100 億ドルを投資すると発表した。

この施設では、以下の研究が行われる予定である。

次世代 HBM

高速 DRAM

AI 向けメモリーシステム

次世代コンピューティング技術

将来の半導体製造技術

これは Micron が、単なる汎用メモリーメーカーではなく、AI 向け高性能メモリー企業へ移行する姿勢を示した材料である。s

5. DRAM・NAND 価格の上昇継続

DRAM と NAND の契約価格は、2026 年第 2 四半期に市場予想以上の上昇を示した。

- サーバーDRAM 需要が強い
- AI 向け HBM が通常の DRAM より多くのウエハーを使用する
- HBM 増産が汎用 DRAM の供給を圧迫する
- エンタープライズ SSD 需要が増加している
- 新工場が本格稼働するまで時間がかかる
- NAND 供給不足が長期化する可能性がある

メモリー価格は 2027 年まで高水準を維持し、その後も供給正常化には時間がかかる
との見方が強まっている。

6. AI では「計算」だけでなく「保存」がボトルネックになるとの評価

生成 AI、AI エージェント、フィジカル AI が普及すると、以下のデータが大量に発生する。

- 学習データ
- 推論結果
- 会話履歴
- KV キャッシュ
- 動画・画像
- ロボットや自動車のセンサーデータ
- システムログ
- 合成データ

このため、AI 投資の恩恵が GPU だけでなく、HBM、DRAM、NAND、SSD、HDD へ広がる
との見方が強まっている。

7. HDD 株にも買いが波及

WDC と STX は DRAM・NAND メーカーではなく、現在は主に大容量 HDD 企業である。しかし、AI が生成した大量のデータを長期保存するには、SSD より 1TB 当たりの価格が安い HDD が必要となる。この為、メモリー株への買いがストレージ株にも波及している。

特に、以下が WDC と STX の強気材料である。

- クラウド向け大容量 HDD の供給不足
- ハイパースケーラーとの複数年契約
- 1TB 当たり価格の上昇
- 40TB 以上の HDD への移行
- 高い粗利益率とフリーキャッシュフロー

8. 前日の急落からの買い戻し

前日は米長期金利の上昇、AI 設備投資への懸念、韓国株の急落によって、メモリー・ストレージ株が大きく売られていた。

本日は SK hynix の自社株買いを契機に、以下の買いが入っている。

- 空売りの買い戻し
- 前日の急落を利用した押し目買い
- AI 関連株からメモリー株への資金回帰
- 高キャッシュフロー銘柄への選別買い

従って、本日の上昇には、業績材料だけでなく、前日の売られ過ぎからの反発も含まれている。

判断

本日のメモリー・ストレージ株上昇の最大のきっかけは、SK hynix の約 286 億ドルの自社株買いと、Samsung の大型株主還元観測である。

その背景には、AI によるメモリー・ストレージ需要の拡大、供給不足、価格上昇、高水準のキャッシュフローがある。

特に重要なのは、メモリー企業が巨額の利益を設備増強だけに使わず、株主還元へ回し始めたことである。これは、従来の「好況時に過剰投資し、その後価格が暴落する」というメモリー業界の循環が弱まる可能性を示している。

Important Disclosures and Specific Risk Factors:

Any recommendation, rating or price target is based on the analyst(s) quotation of the various sources provided. These are not the recommendations, ratings or price targets of American Capital Partners, LLC or the person distributing this commentary. Risks include various industry, macroeconomic, geopolitical, and market-related variables for each company/industry being quoted from the various sources provided.

Certification:

The name which appears on the commentary certifies that: (1) no part of their compensation was, is, or will be directly or indirectly related to specific recommendations or views expressed in the commentary by the analyst(s) quotation of the various sources provided.

Important Information on the Preparation and Use of this Commentary:

American Capital Partners, LLC is located at 205 Oser Avenue, Hauppauge, New York 11788. This commentary is not an offer to sell or the solicitation of an offer to purchase any security in any jurisdiction where such an offer or solicitation would be illegal. Investors in certain states or other jurisdictions may be prohibited from purchasing the subject securities in this commentary.

The information in this commentary is not a complete analysis of every material fact representing the companies and/or industries. It was obtained from various sources which although we believe to be reliable, we do not guarantee its accuracy or completeness.

The securities or strategies discussed in this commentary may not be suitable for all investors, and it is recommended that investors seek financial advice regarding the appropriateness of investing in any securities or investment strategies mentioned in any commentary.

=以上=

本レポートは、米国のマンハッタン・グローバル・フィナンシャル社が作成したものです。本レポートは、信頼できると考えられる公開情報に基づき作成されたものですが、その内容の正確性及び完全性を保証するものではありません。本レポートに記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。本レポートは投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。本レポートに含まれる情報のご利用にあたっては、投資家ご自身の判断と責任でご利用下さい。

キャピタル・パートナーズ証券株式会社

関東財務局長(金商)第62号

金融商品取引業者

日本証券業協会加入、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会加入